

第13章 小田久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.3km、砂川堀の左岸、標高23～28mに位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文時代前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990年に最初の試掘調査が行われて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003年と2004年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中近世である。2013年12月現在、9ヶ所で調査を行っている。

II 小田久保遺跡第9地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2011年1月7日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西部、砂川堀へ下る北斜面に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年3月8日に幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構遺物は確認されなかった。遺構確認面までの深さは約25～35cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

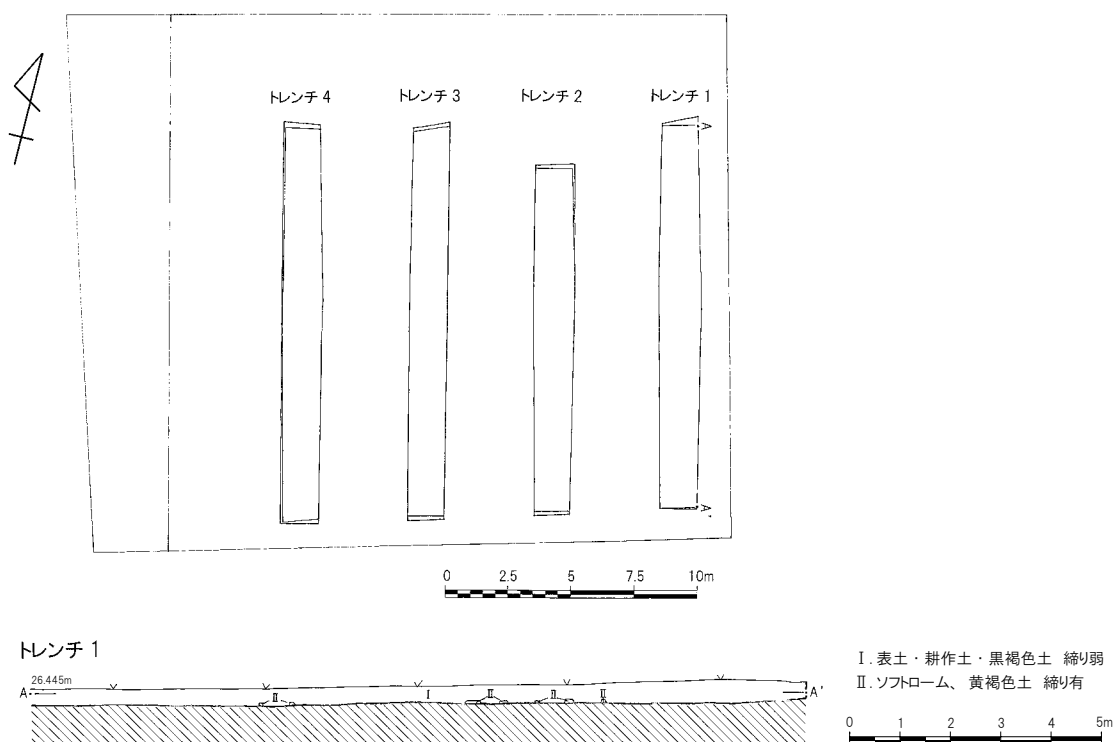


第72図 小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第41表 小田久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井 1223-3	(1990.10.12 ~ 18)	694	資材置場	遺構なし、縄文中期土器片	東ⅩⅠ
2	大井 1249-1	(1993.9.21 ~ 10.1)	498	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片、石器	町内Ⅲ
3	大井 1214-3	(1994.6.7)	330	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片、石器	町内Ⅳ
4	大井 1185-5	(1997.6.24 ~ 26)	271	分譲住宅	土坑1	町内Ⅶ
5	大井字西原 1023	(2003.8.18, 19) 2003.8.20 ~ 9.2	165	個人住宅	縄文中期住居跡1、縄文土器・石器	町内ⅩⅡ
6	大井字小田久保 1207-5	(2004.10.26 ~ 10.27)2004.10.28 ~ 11.13	306	個人住宅	縄文中期住居跡1、集石土坑1、土坑2、ピット8、 縄文土器・石器	町内ⅩⅡ
7	大井字西原 1023-9,8	(2008.5.19 ~ 21)	333	個人住宅	遺構・遺物なし	市内6
8	大井字小田久保 1211-1	(2010.3.3 ~ 9)	421	個人住宅	縄文時代土坑5、ピット8、近世以降根切り溝9、 縄文土器・石器、泥面子	市内8
9	大井字小田久保 1185-1	(2010.3.9)	536	個人住宅	遺構、遺物なし	市内10

※東：大井町東部遺跡群、町：大井町町内遺跡群、町資：大井町史資料編Ⅰ、調査：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群



第73図 小田久保遺跡第9地点調査区域図(1/300)、土層図(1/150)



浄禅寺跡遺跡第33地点



小田久保遺跡第9地点



本村遺跡第123地点トレンチ3完掘



本村遺跡第124地点トレンチ2土坑プラン



本村遺跡第124地点トレンチ2北壁



本村遺跡第125地点



本村遺跡第126地点



本村遺跡第127地点